

令和 7 年度保護林モニタリング調査 調査箇所及び調査項目（案）

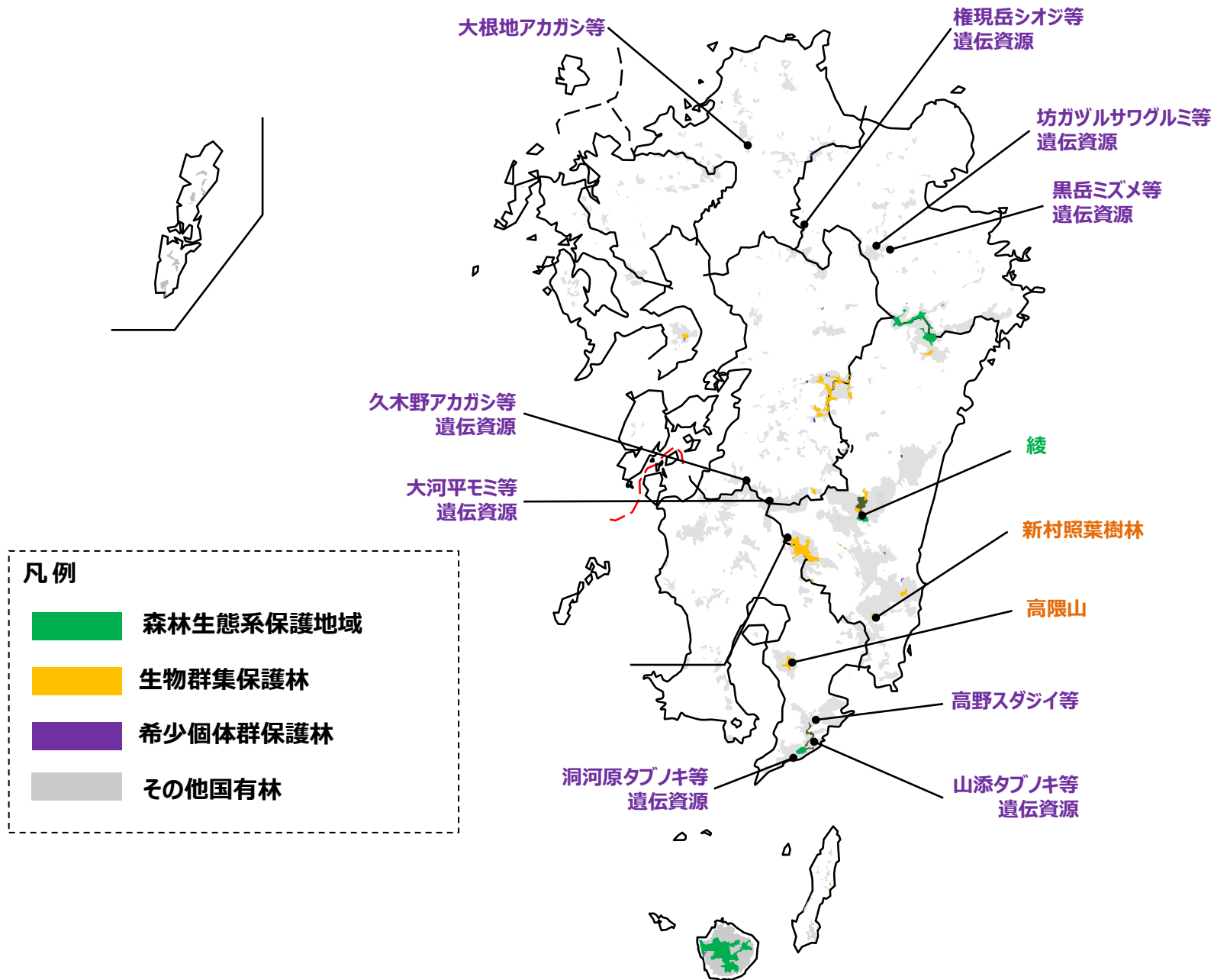
～ 目次 ～

1. 令和 7 年度保護林モニタリング調査予定箇所一覧……………P 1
2. 調査項目選択の基本的な考え方…………… P 3
3. 調査手法選択の基本的な考え方…………… P 5
4. 令和 7 年度保護林モニタリング調査項目一覧……………P 6

1. 令和7年度保護林モニタリング調査予定箇所一覧

区分	保護林名			森林管理署	ページ
森林生態系保護地域	①	重	綾（あや）	宮崎	8
生物群集保護林	②		新村（しんむら）照葉樹林	宮崎南部	9
	③		高隈山（たかくまやま）	大隅	10
希少個体群保護林	④		大根地（おおねじ）アカガシ等	福岡	11
	⑤	重	久木野（くぎの）アカガシ遺伝資源	熊本南部	12
	⑥		大河平（おこびら）モミ等遺伝資源	熊本南部	13
	⑦	重	権現岳（ごんげんだけ）シオジ	大分西部	14
	⑧		坊ガツル（ぼうがづる）サワグルミ等遺伝資源	大分	15
	⑨		黒岳（くろだけ）ミズメ等遺伝資源	大分	16
	⑩		山添（やまぞえ）タブノキ等遺伝資源	大隅	17
	⑪		洞河原（どうがわら）タブノキ等	大隅	18
	⑫		高野（たかの）スダジイ等	大隅	19

令和7年度保護林モニタリング調査予定箇所位置図



2.調査項目選択の基本的な考え方①

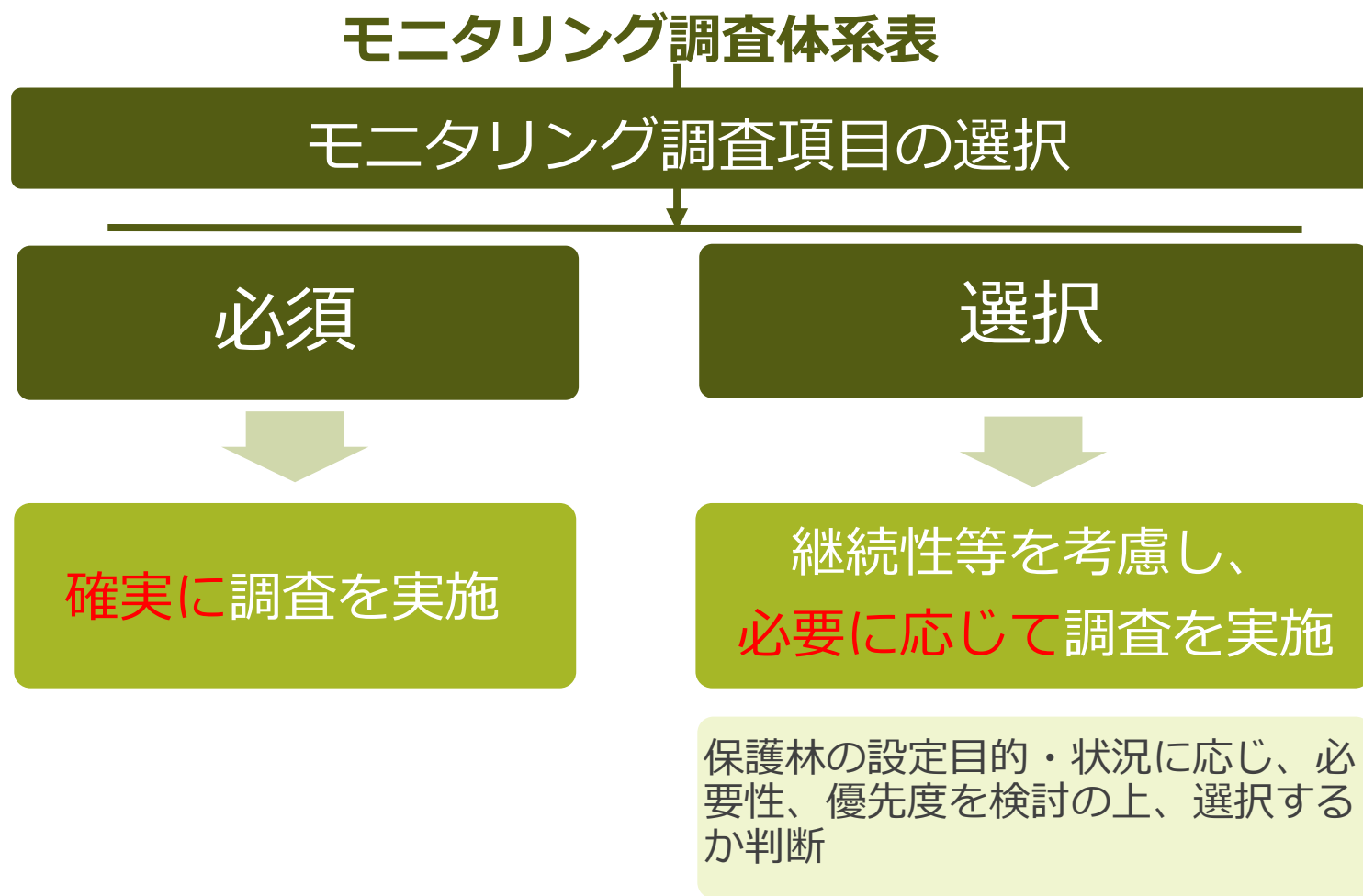
モニタリング調査体系表（保護林モニタリング調査マニュアルP32～37参照）

生物群集保護林(参照)

保護林の機能 評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法 （モニタリング調査項目に対して複数の調査手法の区分が示されている場合には、原則として1 手法、特に必要がある場合には複数の手法を選択）		手法・野帳様式集 該当箇所	
			評価の観点	調査の選択（必須/選択）	調査手法の区分	調査手法の例		
デザイン	地域固有の生物群集を 有する森林が維持され ている	自然状態が十分保存さ れた天然林等の構成状 況	森林タイプの分布等状況調査	保護林内及び周辺の森林タイプの構成がどのように変 化しているか。保全利用地区においては、天然林への 移行が進んでいるか。	選択	資料調査	最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林 情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理	A
			樹種分布状況調査	地域固有の生物群集を有する森林として自然状態が十 分保存された天然林等たるべき樹種分布・構成となっ ているか。	選択	リモートセンシング	調査時点における最新の空中写真等を取得・整理	B
			樹木の生育状況調査	樹木の生育が、地域固有の生物群集を有する森林とし て自然状態が十分保存された天然林等たるべき状態に あるか。	必須	資料調査	既存資料（森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000 等）を活用し、樹木の生育状況を整理	C
						森林概況調査	調査表及び全天球写真を利用し、樹木の生育状況を観察	D
価値	森林生態系からなる自然 環境の維持、野生生物の 保護、遺伝資源の 保護が図られている	野生生物の生育・生息 状況	下層植生の生育状況調査	地域固有の野生生物（植物）が生育しているか。外来 種や特定の植物のみが増えていないか。	必須	森林詳細調査	プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測及び全天球写真 を利用して樹木の生育状況を定点観察	E
						資料調査	既存資料（森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000 等）を活用し、下層植生の生育状況を整理	F
			野生動物の生息状況調査	地域固有の野生動物が生息しているか。	選択	森林概況調査	調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察	D
						森林詳細調査	同一時期にプロット内に出現する全ての種を記録及び全天球写真 を利用し、下層植生の生育状況を定点観察	G
		森林の被害状況	山火事・山腹崩壊・地すべ り・噴火等の災害発生状況調 査	災害がどこで発生しているか。被害状況はどの程度か。	選択	資料調査	既存資料（森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000 等）を活用し、野生動物の生息状況を整理	H
						動物調査	自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生 動物の生息状況を記録	I-1（哺乳類） I-2（鳥類） I-3（その他）
			病虫害・鳥獣害・気象害の発 生状況調査	病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか。被害状況 はどの程度か。	選択	資料調査	既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を 調査	L
						森林概況調査	調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害に よる被害状況を観察	D
						森林詳細調査	プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定 量的に調査	M
						資料調査	災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類 や件数、面積、分布等を整理	J
						リモートセンシング	保護林区域を明示した空中写真を（立体視）判読して、大規模な 災害発生箇所（山腹崩壊等）を確認	K
利活用	森林施業・管理技術の 発展、学術の研究等に 利用されている	学術研究での利用状況	論文等の発表状況調査	主にどのような学術研究に利用されているか。	選択	資料調査	インターネット等を利用し、学術論文数等を整理	N
管理体制	適切な管理体制が整備 されている	保護林における事業・ 取組実績、巡視状況等	外来種駆除、民国連携の生物 多様性保全に向けた事業・ 取組実績、巡視の実施状況 調査	対象保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事 業・取組となっているか。	選択 （保護林等整備・保全対策に よる事業等が行われている場 合には必須）	聞き取り調査	業務資料や担当官への聞き取り調査により、保護林の管理体制、 事業・取組実績を確認	O

2.調査項目選択の基本的な考え方②

※保護林モニタリング調査マニュアルP11,32～37参照



3.調査手法選択の基本的な考え方

※保護林モニタリング調査マニュアルP15,16参照

モニタリング調査体系表

それぞれの調査項目に対する
モニタリング調査手法の選択

複数の調査手法がある場合、原則として1手法を選択

シカ食害・病虫害等により、植生
変化が懸念、個体群の消失が危ぶ
まれている箇所

特に問題が認められていない

森林**詳細**調査

調査プロットを設定して
保護林の状況を把握する
詳細な現地調査

毎木調査 + 植生調査

森林**概況**調査

チェックシート等を用いて
保護林の状況を把握する
簡易な現地調査

4. 令和7年度保護林モニタリング調査項目一覧

◎:必須実施、●:選択（R7実施）

	重点対策17保護林	保護林名	区分	森林タイプ の分布	樹種 分布	樹木の 生育			下層植生の生 育			野生動物の 生育・生息				災害発生 状況		病虫害・鳥獣 害			利活用	管理体制	保護対象 種の生 育・生息		植生保護 柵内の植 生
				A	B	C	D	E	F	D	G	H	I-1	I-2	I-3	J	K	L	D	M	N	O	P	Q	-
				資料 調査	リ モ ー ト	資料 調査	森林 概況	森林 詳細	資料 調査	森林 概況	森林 詳細	資料 調査	哺乳 類	鳥 類	その他	資料 調査	リ モ ー ト	資料 調査	森林 概況	森林 詳細	資料 調査	聞き 取り	資料 調査	森林 詳細	森林 詳細
①	重	綾	森林生態系 保護地域	◎		◎		◎	◎		◎	●	●	●				●		●	◎	◎			●
②③		新村照葉樹林・高隈山	生物群集 保護林			◎		◎	◎		◎							●		●		●			
⑤	重	久木野アカガシ	希少個体群 保護林			●		●	●		●							●	●			●	◎	◎	●
⑦	重	権現岳シオジ				●		●	●		●							●	●			●	◎	◎	●
④、⑥、 ⑧～⑫		上記以外すべて				●		●	●		●							●	●			●	◎	◎	

重点対策17保護林に該当する保護林については 二ホンジカ対策の評価項目を引き続き実施

- ・柵内外の植生調査
- ・柵の点検、修理
- ・新たな柵の設置箇所の提案

* 保護林モニタリング調査マニュアルでは、令和7年度保護林モニタリング調査対象保護林における森林詳細調査は「選択」となっているが、シカ被害状況や病虫害発生の可能性を踏まえ、実施する。資料調査についても、「選択」となっているが、最近の資料の有無を含め実施する。

* 同様に、病虫害・鳥獣害について、綾・新村照葉樹林・高隈山では森林詳細調査が「選択」、その他の保護林では森林概況調査が「選択」となっているが、シカ被害状況や病虫害発生の可能性を踏まえ、実施する。

* また、植生保護柵が設置されている保護林について、植生保護柵内の植生に関する森林詳細調査は「選択」となっているが、シカ被害の状況を踏まえ、柵内外の植生調査を実施する。

植生保護柵内の植生調査

【目的】 保護対象種の確実な育成を図るため。

【対象地】 重点対策17保護林内の植生保護柵のうち、既設プロットに隣接する各1つを選択する。

①保護柵内外の植生調査

植生の保護・再生状況等を把握するため、監督職員と協議のうえ、植生保護柵設置箇所から1箇所選定し植生保護柵内外の植生調査を実施し、今後の対応策を提案する。

②保護柵の保守点検・修理

保護柵の保守点検を行い、破損している場合には修理する。なお、対応が不可能な規模の修理を伴うものについては、本調査事業の監督職員へ破損状況等を連絡するものとする。

③保護柵の新たな設置箇所の検討

優先的に保全すべきエリアとシカ柵設置箇所を設定するための調査を実施し、提案する。

④保護柵内の植生の保護・再生の補助作業の検討

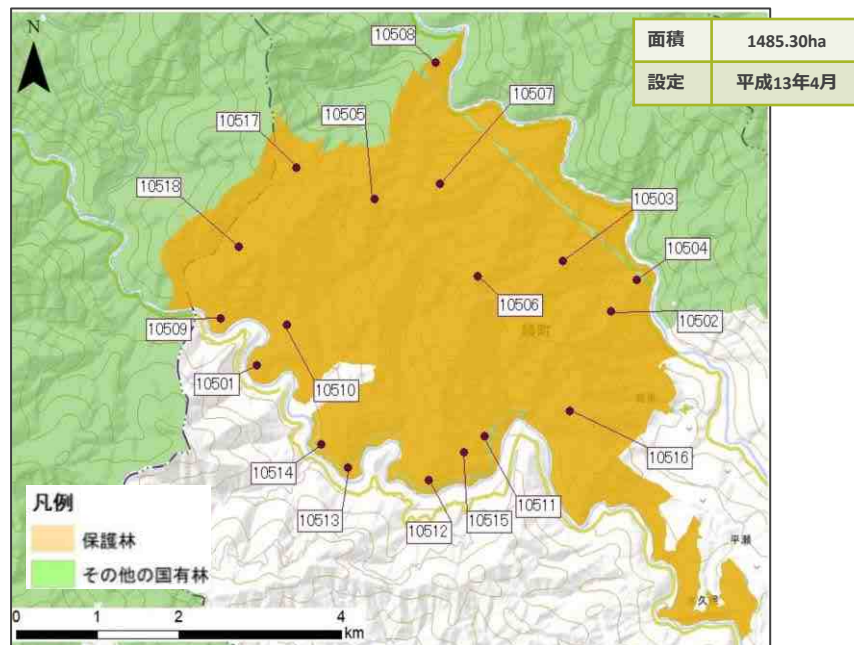
植生保護柵内ではシカによる食害を受けないため、繁殖力の強い特定の種が増加し、保護対象種を被圧する。そのため、保護対象種の生育に影響が生じている場合や、今後の生育に影響を与える可能性がある判断された場合、対象種の保護や再生の補助作業の必要性について提案する。

①綾森林生態系保護地域

宮崎県小林市および東諸県郡綾町に所在し、綾北川、綾南川の上流に位置している。原生的な照葉樹林としては、日本一の規模を誇るとされ、植生の垂直分布の変化が見られるとともに、貴重な動植物の分布域であり、学術的に高い価値と希少性を有する。

保護・管理を図るべき事項

日本を代表する照葉樹林地域であり、多様な森林生態系を有する地域として、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究などに活かし、良好な形で後世に引き継いでいくこととする。



R2 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル **3**
- 保護対象樹種のイチイガシ・コジイ・イスノキ等の健全な生育が確認された。
- 1プロットでマテバシイのカシノナガキクイムシ被害が確認された。
- 低木層はシカの忌避植物が優占し、林内の見通しは良かった。
- 草本層は植被率がきわめて低く、貧弱であった。
- 鳥類の希少種としてヤイロチョウが確認された。
- 大雨の影響で昆虫相が特に貧弱であった。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種を含む各事項に係る、
森林詳細・資料

【選択項目】

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）
植生保護柵内の植生調査（実施）



無人航空機による空撮



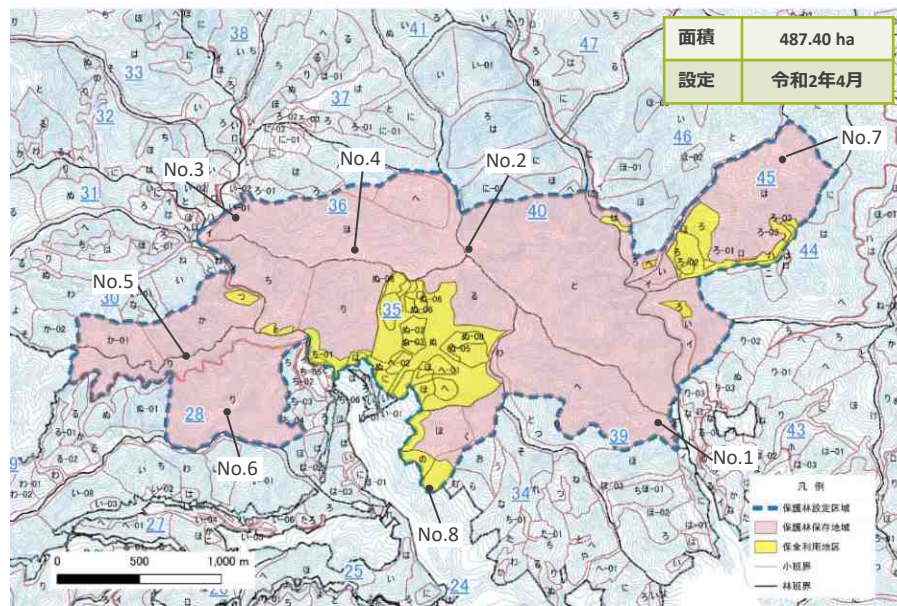
プロット10501

②新村照葉樹林生物群集保護林

宮崎県日南市新村地区及びその周辺区域を含み、日南ダムの上流域、酒谷川源流と支流の割岩谷川が合流する日南平野北端へ続く標高250m～800mの山地にあって、地質的には、新生代古第三紀日南層群で、主として砂岩層が分布する。原生的な照葉樹林が大規模にまとまって残っており、全国的に見ても極めて稀である。

保護・管理を図るべき事項

保護林の中には希少な野生動植物が多数生息・生育しており、これらの盗採・盗掘・密猟の防止、シカ害、病虫害などからの適切な保護などの観点から、森林生態系を一体的に保全していく。



R2 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル 0
- カシノナガキクイムシ被害（ナラ枯れ）が確認されたが、調査時点では散発的発生に留まっている。
- 空中湿度が高い環境にはナゴランやミヤマムギラン、オトコシダ、アミシダ、ホウノカワシダなどの希少種が確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



無人航空機による空撮



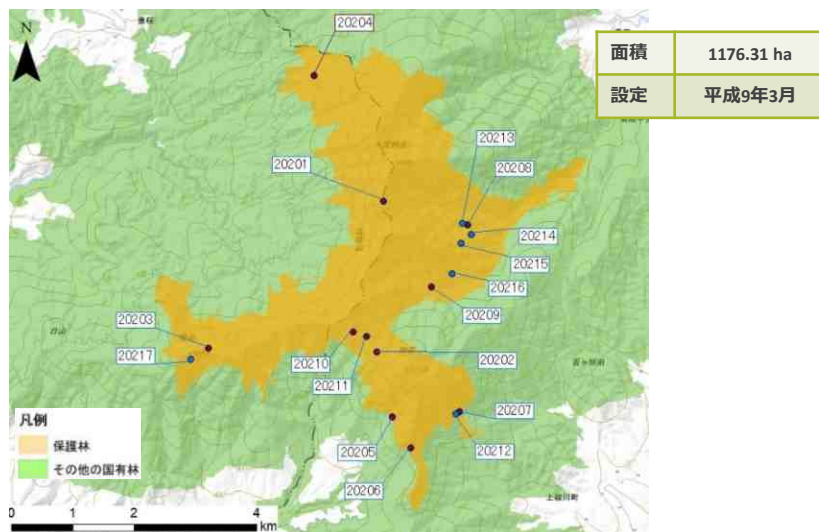
プロットNo.1

③高隈山生物群集保護林

鹿屋市・垂水市の2市にまたがり、鹿児島県大隅半島の中部に位置し、北西側に活火山桜島がある。標高1,000m以上の山々が連座し、尾根部には九州最南端部のミズナラ、ブナ林群落等の冷温帯落葉広葉樹林がみられ、冷温帯性動植物の南限のものも多い。

保護・管理を図るべき事項

暖温帯下部の照葉樹林域から、高標高域に隔離・遺存的に生育するブナ・ミズナラ群落等の冷温帯落葉広葉樹林域の貴重な森林生態系を保存する。



R2 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル **0**
- 保護対象種はイスノキ、ホソバタブ、スダジイ、マテバシイが確認されたが、冷温帯落葉広葉樹のブナの後継個体は確認されなかった。
- 1プロットのみでスズタケの生育が確認された。
- 自動撮影カメラに多数のシカが確認され、雌生体の群れも確認された。
- 希少種として、コシジロヤマドリが確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



無人航空機による空撮



プロット20208

④大根地アカガシ希少個体群保護林

福岡県飯塚市の大根地山（標高652m）東方に位置し、林内には大根地神社がある。

林相は、カシ類、タブノキその他天然林広葉樹林である。また、保護林は神社の風致維持のため重要である。

保護・管理を図るべき事項

歴史的・学術的価値を有するカシ、タブノキ、その他広葉樹の天然林であり、天然林施業・学術研究等に資する。



R2 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル **0**
- 保護対象樹種のアカガシやその他広葉樹の健全な生育が確認された。
- 後継個体はタブノキ、ホソバタブ、スダジイが確認されたが、調査箇所でアカガシは確認されなかった。
- アオキの衰退が顕著で、林内の見通しがやや良くなりつつある。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



無人航空機による空撮



プロット40301

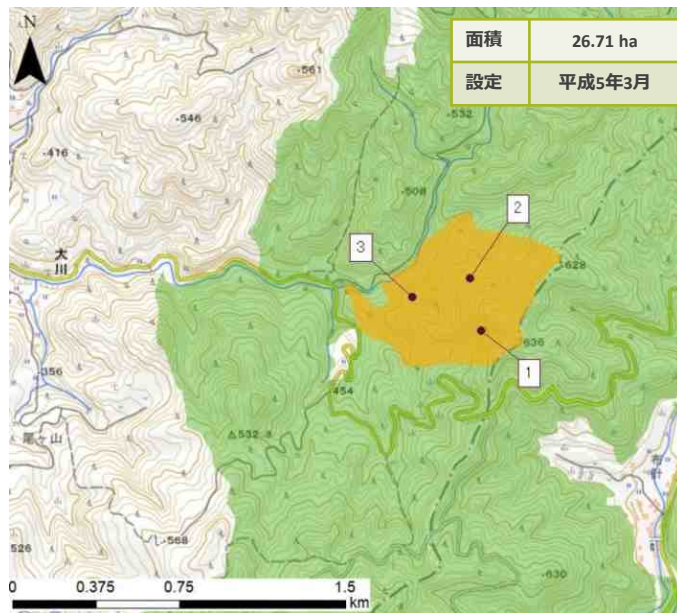
⑤久木野アカガシ等遺伝資源希少個体群保護林

熊本県水俣市の東部にあり、林相は、マテバシイ、ツブラジイ等のシイノキ類を主体に、アカガシ、ウラジロガシ、イチイガシ等を含め唯一のまとまった照葉樹林となっている。

I B P（国際生物学事業計画）として指定を受け、昭和42年から生態学者による専門的な研究が現在も行われている。

保護・管理を図るべき事項

アカガシ、ウラジロガシ、イチイガシ、ツブラジイ、タブノキ等の照葉樹天然林を保存するとともに、学術研究等に資する。



無人航空機による空撮



プロット1

R2 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル3
- 保護対象樹種のアカガシとウラジロガシにカシノナガキクイムシによる被害が確認された。
- 後継個体としてアカガシ、イチイガシ、ツブラジイ、ホソバタブ、イスノキ、バリバリノキが確認された。
- 以前、確認されていたアオキの生育が確認されず、種構成に変化が生じていた。
- 低木層でホソバタブの樹皮剥ぎ被害が顕著であり、ほぼ全ての個体が枯損している箇所があった。

R7調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

⑥大河平モミ等遺伝資源希少個体群保護林

熊本県人吉市より南へ約 13 km、鹿児島県、宮崎県との境に位置している。

林相は天然林でウラジロガシを含むカシ類を主とした、タブノキ、イスノキ等の広葉樹と、モミ、ツガ等の針葉樹の混交林である。

保護・管理を図るべき事項

モミ、ウラジロガシ、ミズメ、タブノキ、イスノキ等の針広混交の天然林を保存するとともに、学術研究等に資する。



R2 結果（森林調査・シカ被害）

- ・シカ被害レベル 2
- ・保護対象樹種のウラジロガシの一部がナラ枯れにより健全性を欠きつつあった。同じく保護対象種のミズメは今年度確認されなかった（過年度の確認は1本）。
- ・後継個体はタブノキ、ホソバタブ、イヌガシ、モミが確認された。
- ・草本層は全プロットともに植被率が極めて低く、貧弱であった。



無人航空機による空撮



プロット1

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

ごんげんだけ
⑦権現岳シオジ等遺伝資源希少個体群保護林

大分県日田市前津江町の津江三山の一つ権現岳頂上には津江殿が権現を祀っており、その下方に位置し、ツクシシャクナゲをはじめ、高山植物やシオジ、ブナ、ケヤキ等が生育する。こうした原生林は古くから地域の人々に親しまれ歴史的・学術的にも貴重な森林である。

保護・管理を図るべき事項

シオジ、ケヤキ、ブナ等の広葉樹天然林を保存するとともに、学術研究等に資する。



無人航空機による空撮



プロット3

R2 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル **3**
- 全ての保護対象樹種の健全な生育が確認された。
- 保護対象種の後継個体は確認されなかった。
- シカの忌避植物であるアブラチャンやシロモジが優占している状況。
- 標高1000m以上において低木層構成種のスズタケが開花枯死。付近の尾根沿いでシカの痕跡が確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

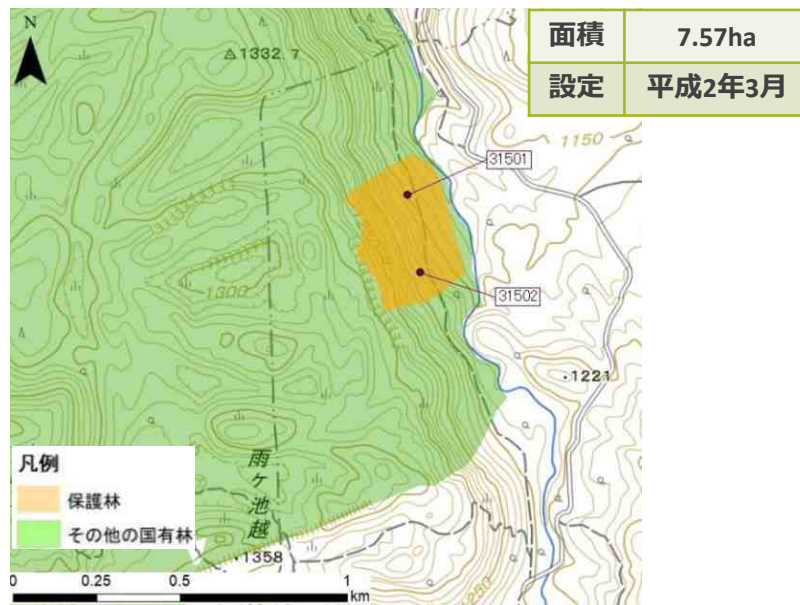
各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

ぼうがづる ⑧坊ガツルサワグルミ等遺伝資源希少個体群保護林

久住連山の平治岳、三俣山に挟まれた鳴子川の西側で標高1,000mに位置している。林相は、サワグルミ、ミズメ、ハリギリを主体とした広葉樹の天然林である。

保護・管理を図るべき事項

サワグルミ、ミズメ、ハリギリ等の広葉樹天然林を保存するとともに、学術研究等に資する。



R2 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル 0
- 保護対象樹種のサワグルミ及びハリギリは健全な生育が確認された。
- 後継個体はハリギリが確認された。
- シカの忌避植物であるアブラチャンやチドリノキが優占している状況。
- シカの忌避植物であるニシノヤマタイミンガサが繁茂している状況。

R7調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



無人航空機による空撮



プロット31502

くろだけ ⑨黒岳ミズメ等遺伝資源希少個体群保護林

大分県由布市と竹田市との町境に位置し、大船山（標高1,787m）東南の方向で阿蘇くじゅう国立公園内にある。林相はミズメ、ブナ、アカシデ、カエデ類からなり、傾斜30度の斜面に岩石が散在し、その間に林木が成育している状況である。

保護・管理を図るべき事項

ミズメ、ブナ、アカシデ、ハリギリ、ヤマザクラ、イタヤカエデ等の広葉樹天然林を保存するとともに、学術研究等に資する。



無人航空機による空撮



プロット31601

R2 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害レベル **3**
- 保護対象樹種のイスノキ、ミズメ、ブナ、イタヤカエデは健全な生育が確認された。
- 後継個体はアオダモ、コハウチワカエデが確認された。
- 保護対象樹種の後継個体は確認されなかった。
- シカの忌避植物であるニシノヤマタイミンガサが繁茂している状況。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

⑩山添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林

鹿児島県大隅半島の肝属山系東南部に位置し、林相はタブノキ、イスノキ、マテバシイ、スダジイ等の常緑広葉樹林の天然林で、樹齢は155年生以上となっている。大隅半島緑の回廊により、稲尾岳周辺森林生態系保護地域と神野イスノキ遺伝資源希少個体群保護林に連結している。

保護・管理を図るべき事項

タブノキ、イスノキ、マテバシイ、スダジイ等の原生的常緑広葉樹天然林を保存するとともに、学術研究等に資する。



R2 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル **0**
- 全ての保護対象樹種の健全な生育が確認された。
- 後継個体は全ての保護対象樹種が確認された。
- 1プロットでシカの新しい糞が確認された。
- 自動撮影カメラで多数のシカが確認された。
- 希少種のクマタカが確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

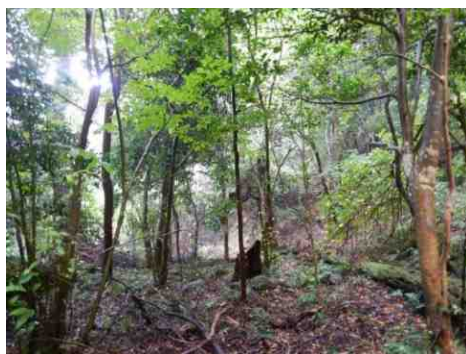
【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）
植生保護柵内の植生調査（実施）



保護林範囲

無人航空機による空撮



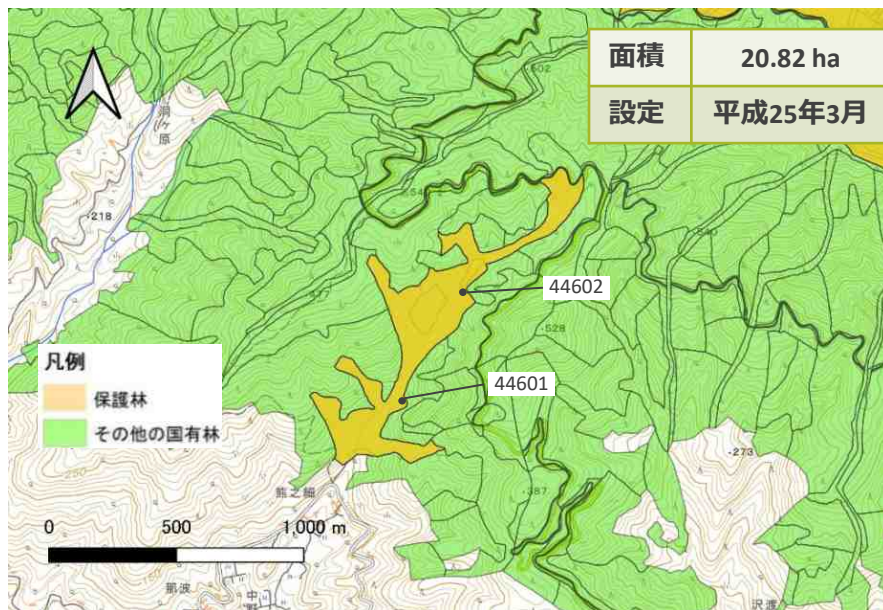
プロット33403 (No.3)

⑪ 洞河原タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林

洞河原タブノキ等希少個体群保護林は、タブノキの大径木が占有し、ヘツカラン・ナゴラン・オオタニワタリ等の南方系の着床植物が多く生育する自然性の高いムサシアブミータブノキ群集となっている。この群集は全国的に残存林分が少なく、希少な植物群落である。

保護・管理を図るべき事項

タブノキの大径木等が生育し、ヘツカランやオオタニワタリ等の希少な着床植物を保護するとともに、学術研究等に資する。



プロット44601



プロット44602

H28 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル 1
- 保護対象樹種の枯損等は確認されなかった。
- 保護対象樹種のほか、ヘツカラン、オオタニワタリ等の希少な着生植物の生育が確認された。

R 7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

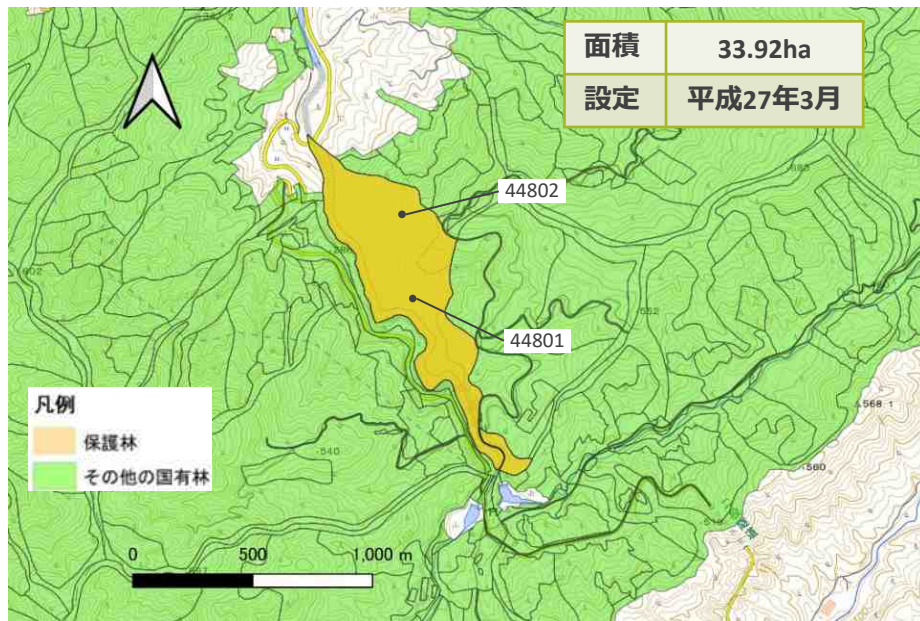
植生保護柵内の植生調査（実施）

⑫ 高野スダジイ等希少個体群保護林

大隅半島南端の稲尾岳と甫与志岳に挟まれた肝付町内高山川右岸側斜面にあり、スダジイ、タブノキ、イスノキ等の巨木が生育するイスノキ・ウラジロガシ群集が成立している。群集内には地理的な特徴を反映する、九州南部を北限とする南方系の種も生育しており、希少な植物群落である。

保護・管理を図るべき事項

スダジイ、タブノキ、イスノキ等の巨木が生育する自然性の高い群集の保護を図ると共に、学術研究等に資する。



プロット44801



プロット44802

H28 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル 0
- 保護対象樹種であるスダジイ・イスノキ等の大径木の生育が確認された。
- オタニワタリ等の南方系植物の生育が確認された。
- シイ・カシ類の虫害（ナラ枯れ被害）が確認された。

R7 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料
野生動物の生育・生息

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）
植生保護柵内の植生調査（実施）